

平成28年7月22日

中四国初！ 岡山大学病院が500例目達成 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」による前立腺全摘手術

岡山大学病院泌尿器科による手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた前立腺全摘手術が、中四国で初めて500例目に達しました。7月20日現在で512例です。また、腎部分切除、腎盂形成、自家腎移植を含めると、泌尿器科でのダ・ヴィンチによる手術は550例を超えています。

ダ・ヴィンチによる手術は、基本的には腹腔鏡手術です。二酸化炭素ガスによる気腹のため、従来の開腹手術にくらべ出血量も約10分の1となります。手術支援ロボットである「ダ・ヴィンチ サージカルシステム」を使用することにより、①15倍まで拡大した3Dの視野、②より繊細な剥離や運針が可能となります。

これにより術後の尿漏れの回復が早くなります。また、勃起神経温存時の男性機能の回復率も従来より良好となっています。

岡山大学病院はいち早くダ・ヴィンチを導入し、平成22年10月に前立腺がんに対して第1例目のロボット支援腹腔鏡下根治的前立腺摘除術（RALP）を施行。平成23年4月に保険適応となりました。平成28年7月20日現在512例で中四国第1位、全国では第9位です。また、泌尿器科では現在7人という豊富なライセンス保持者がいるのも強みです。



手術風景



術者はコンソールを操作しロボットの鉗子を操作する。非常に繊細な操作が可能。

<お問い合わせ>

岡山大学病院泌尿器科

講師 荒木 元朗

(電話番号) 086-235-7287

(FAX番号) 086-231-3986



手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」

- ・ 15 倍まで拡大可能な 3D の視野
- ・ より繊細な剥離や運針が可能（折り紙で鶴を折ることも可能）
- ・ 気腹による少ない出血量（前立腺なら従来の約 1/10）